三鷹市立南浦小学校　令和8年度【社会】授業改善推進プラン

	前年度授業改善推進プランの検証	学習状況の現状と課題	指導方法の課題と授業改善策
第1学年			
第2学年			
第3学年		○地図や写真などの資料を読み取り、積極的に課題に向き合う姿勢が見られる。 ○四方位や八方位、地図記号を帯で扱うことで興味をもって学習に取り組んでいる。一方で、実際に地図の読み取りを行うと定着していない児童も多くいる。 ○調べたことからまとめを自分の言葉で書くことが難しい児童がまだ多くいる。	○基礎的な知識や、単元でおさえるべき用語は繰り返し確認し、定着を図る。また、生活につなげて考えたり調べたりできるようにする。 ○まとめる際のキーワードを提示したり、自分の言葉でまとめことが難しい児童には穴埋め型のワークシートや既習事項の確認ができるヒントカードを用意したりして支援を行う。 ○毎時間まとめを書く活動を継続して設定し、単元の最後に児童が自分の言葉でまとめることができるようにする。
第4学年	○調べ学習をタブレットでまとめる際、まとめ方の見本を提示し、全体で使い方を一通り確認した。 ○資料が多くなって戸惑わないよう、資料を出すタイミングや資料の数など事前に精選した。 ○地図を見ながら方角について定着を図った。	○資料を読み取り、積極的に課題に向き合う姿勢が見られる。 ○課題に対するまとめを自分の言葉で書くことが難しい児童もいる。 ○都道府県の小テストを定期的に行うことで、日本地図の位置関係や地理への理解が深まっている。	○児童が積極的に課題解決できるように、資料の精選を引き続き行っていく。 ○まとめる際に、キーワードは何かを全体で共有することで、誰でも書けるようにする。 ○都道府県の定着とともに、県庁所在地や周辺の島々についても理解を深めていく。
第5学年	○児童の疑問や調べたいことを引き出し、単元を貫く学習問題を設定した。 ○資料のタイトルや目盛りに着目させ、数値の増減や変化の傾向を読み取らせ、そこからどのようなことが読み取れるかペアで伝え合う時間を設定した。 ○授業のめあてに対して、自分の言葉でまとめる活動を毎時間設けた。また、書けない児童には個別に指導・助言をした。	○既習事項の定着に個人差が見られるものの、既習の知識や生活経験をもとに学習問題に対する予想を立て、見通しをもった学習計画を立てることができている。 ○複数の資料（図表・写真等）から必要な情報を読み取り、比較・関連付けを行うことで、その背景にある理由や要因を考えようとする児童が多い。 ○授業のまとめを、授業の要点を自分の言葉でまとめながら書くことができる児童が増えている。書くことが難しい児童には、穴埋め型のまとめシートをスライドで共有し、少しずつ自力で書けるように促している。	○各単元で押さえるべき重要用語や概念について定期的に確認して定着を図る。また、学年を越えた単元のつながりを意識し、これまでに学んだことや先の単元を見越して既習概念を活用させる指導を行う。 ○資料から読み取った情報をもとに、根拠をもって自分の考えを友達に伝え合う活動を組み組む。早くできた児童には、ICTを用いて関連する資料を調べさせたり、自分なりの問いを探究させたりする。 ○単元の最後に、学習問題に対して自分なりの答えをまとめることができるよう、毎時間授業のまとめを自分で書く活動を継続する。
第6学年	○基本的な表やグラフの読み取り方を丁寧に確認し、各自が適切に読み取ったり、分析したりする時間を十分に確保した。 ○ICTを活用し、情報を整理できるようにした。 ○資料から読み取った情報をもとにペアやグループで考えたことを伝え合う時間を意図的に設定し、児童同士で資料から読み取る力や分析する力が高め合えるようにした。 ○三鷹市小・中一貫カリキュラムの内容系統配列一覧表を参考に単元のつながりを意識し、既習を生かした指導、先を見通した指導になるよう学習に連続性をもたせるようにした。	○教科書からの情報だけでなく、資料集からも適切に情報を集めることができる児童もいる。一方で、「政治」や「歴史」の学習に出てくる言葉の難しさから、資料を読み取ることを諦めてしまう児童もいる。 ○既習学習を生かしたり、予想を立てながら学習に取り組んだり、意欲的な姿勢が多く見られる。	○「政治」→自分の生活と結び付ける 「歴史」→今の日本へのつながりを考える 今と昔の相違点に着目する 前後の時代とのつながりを意識する 「世界」→日本とのつながりを考える ことに重点を置き、授業を展開する。 ○語彙を増やせるよう、新しい言葉の意味について調べる時間を確保する。 ○資料を精選し、提示する。 ○ICT機器を必要に応じて活用し、情報を整理できるようにする。